

昭和館写真展

# 子どもたちの 戦中・戦後



疎開先へ出発する直前に自宅にて 東京都渋谷区 昭和19年(1944)9月3日



絵を描いて遊ぶ児童たち 東京都豊島区池袋 昭和19年(1944)3月頃 菊池俊吉撮影



罹災した兄弟 東京都荒川区尾久 昭和20年(1945)4月14日 石川光陽撮影

入場  
無料

2023年  
3/18(土)

▶ 5/7(日)

昭和館2階ひろば

10:00~17:30(入館は17:00まで)

休館日 / 毎週月曜日(5月1日は開館)

後援 / 千代田区

千代田区教育委員会



ララへの感謝 場所不詳 昭和22年(1947)3月頃 American Friends Service Committee提供



米軍のジープを囲む子どもたち 東京都 昭和23年(1948)~36年頃 マッカーサー記念館提供



〒102-0074 東京都千代田区九段南 1-6-1  
TEL.03-3222-2577 FAX.03-3222-2575  
<https://www.showakan.go.jp>

#### 交通のご案内

〈電車ご利用の場合〉  
地下鉄九段下駅から徒歩1分(東西線・半蔵門線・都営新宿線 4出口)  
JR飯田橋駅から徒歩約10分  
〈車をご利用の場合〉  
首都高速西神田ランプから約1分(九段下交差点)  
・有料駐車場(30分200円)  
普通乗用車専用駐車場がご利用になります。

<https://twitter.com/showakankudan> <https://www.facebook.com/showakankudan/>

★新型コロナウイルス感染拡大防止のため、館内の一斉清掃や、入場制限を実施しています。  
詳細は HP でご確認ください。





# 子どもたちの 戦中・戦後

昭和館写真展



薙刀の授業 東京都荒川区 昭和15年(1940)2月5日

## ごあいさつ

昭和館では、毎年さまざまなテーマで所蔵写真を紹介する写真展を開催しています。

今回は『子どもたちの戦中・戦後』と題し、時代によって変化する

子どもたちの暮らしを紹介します。

戦争がはじまり、国内が戦時体制へ向かっていくと、

人々の暮らしにも少しずつその影響が広がっていきました。

子どもたちの暮らしも例外ではなく、学校生活や遊びの内容も変化していきます。

終戦を迎えると空襲におびえることはなくなりましたが、

都市部の駅などには多くの戦災孤児の姿が見られました。

引き続き食糧や物資の不足が深刻な中でも、子どもたちはたくましく生き、

未来を担う子どもたちのために保護や救済を行う人々もいました。

春は卒業式や入学式、新学期、「こどもの日」と、子どもたちの季節とも言えます。

子どもたちが健やかに育つことは、いつの時代も人々の願いであることは変わりませんが、

戦中から戦後にかけて、子どもたちを取り巻く社会が

どのように移り変わったのかをご覧ください。



井戸に集まった疎開児童たち  
埼玉県久喜市栗橋町 昭和19年(1944)9月



保護施設に到着した孤児たち  
東京都 昭和21年(1946) 師岡宏次撮影



パン食い競走  
神奈川県川崎市川崎区観音 昭和30年(1955)10月9日



昭和館



七五三の記念写真 埼玉県越谷市 戦中



お花見に来た家族 東京都小金井市 昭和23年(1948)4月11日 小川駿提供